



第392号

**公益社団法人
徳島県環境技術センター**

発行

徳島市津田海岸町 2-33

電話 (088) 636-1234(代)

発行責任者 大坂 利弘

編集者 原岡 艶甲

第 9 回 ポスターコンクール表彰式 優秀作品に飯泉知事から表彰状

平成 24 年 10 月 23 日(火)午後 1 時 30 分より、県庁知事室において、平成 24 年度「浄化槽の日」ポスターコンクールの表彰式が執り行われた。

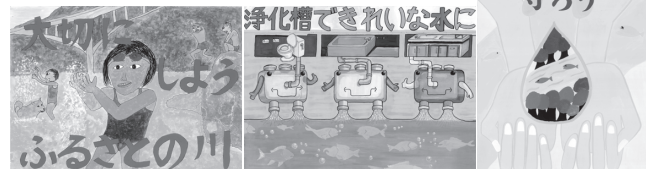
表彰式には、飯泉知事と佐野教育長・センター大坂会長、最優秀賞を受賞された松下莉子さん(池田小 5 年)、玉谷明日香さん(阿波中 3 年)、美馬匠吾君(名西高 1 年)の他、優秀賞を受賞された 7 名及び付き添いの保護者や先生など多数の出席があった。

飯泉知事は、一人一人に表彰状と盾・副賞を授与し、「水は蛇口をひねればいつも出るといったものではありません。汚れた水を飲めるようにするには大変な努力が必要です。浄化槽はみなさんが使った水をきれいにする働きをしています。お友達に生き物にとって水は大切なものです。と教えてあげてください。また、保護者の皆さんには、今回のポスターコンクールを通してはぐくまれた、子ども達の感性をずっと継続できるようにしてあげてください」とお祝いの挨拶をした。

最後に、受賞者の皆さんと主催者の飯泉知事・佐野教育長・大坂会長と一緒に、記念写真を撮り表彰式を終えた。



記念撮影

松下莉子さん
(池田小 5 年生)美馬匠吾君
(名西高 1 年生)玉谷明日香さん
(阿波中 3 年生)

神山町きれいな水づくり 推進協議会開催

神山町では 10 月 1 日から維持管理一括契約がスタートしているが、実際に契約業務を行う上で協議が必要な事項が提案されたため、10 月に 3 回、11 月にも 1 回、県環境整備課、徳島保健所、神山町役場、会員事業者らが出席し、神山町きれいな水づくり推進協議会が、県環境技術センター事務所と神山町役場で開催された。

主に町民への周知・啓発方法の見直しとそれぞれの役割分担について熱心に議論が交わされた。

協議の結果、①町および県は、設置者に対し、保守点検・清掃・法定検査の 3 つの義務を必ず遵守するよう指導する。また、それには協議会に入るのが便利で安心であると説明、一括契約を積極的に推進する。②実際に設置者宅を訪問する保守点検業者は、料金の算定や加入のメリット等について十分説明した上で、契約を取り付けることとした。なお、課題等に迅速に対応するため、今後も頻繁に協議会を開催し、情報交換を行うことを確認した。



10 / 9 神山町役場にて

表彰者一覧

<小学生の部>

最優秀賞	松下 莉子さん	池田小 5 年
優秀賞	仁木菜々子さん	中野島小 1 年
優秀賞	西尾 忠恭君	山瀬小 3 年
優秀賞	福田 彩乃さん	新野小 5 年
佳作	吉本 大和君	小松島小 1 年
他 9 名		

<中学生の部>

最優秀賞	玉谷明日香さん	阿波中 3 年
優秀賞	中尾 樹世さん	阿波中 1 年
優秀賞	笠井 希美さん	阿波中 3 年
優秀賞	高木 駿弥君	脇町中 1 年
佳作	近藤 未来さん	城西中 1 年
他 4 名		

<高校生の部>

最優秀賞	美馬 匠吾君	名西高 1 年
優秀賞	後藤麻里子さん	板野高 2 年
優秀賞	米原 志織さん	名西高 2 年
優秀賞	新居由香莉さん	池田高 2 年
佳作	岡本 真衣さん	川島高 1 年
他 1 名		

24 年度 上半期の出荷台数 微増

(社)浄化槽システム協会は、この度、平成 24 年度上半期の浄化槽出荷統計をまとめた。

それによると、5 人槽から 10 人槽の小規模浄化槽の出荷台数は、67,430 基（去年同期比 2.1% 増）と増加したが、11 人槽から 50 人槽は仮設住宅向けの需要がなくなったため、4,028 基（同 24% 減）と大きく減少した。また、51 人槽以上は 843 基（同 20.8% 減）であった。

23 年度上半期は出荷台数が落ち込んでいたが、24 年度上半期は一定の落ち着きを取り戻したように思われる。

特に東北ブロックの青森、岩手、宮城、福島では、5 人槽から 10 人槽の出荷台数が大きく増加し、その一方で昨年假設住宅向けに大きな需要があった 11 人槽から 50 人槽が大きく落ち込んでいる。

四国では 5 人槽から 50 人槽までが、香川県が 1,789 基で 4% 増、徳島県が 1,420 基で 3% 増となり、5 人槽から 10 人槽、11 人槽から 50 人槽のいずれも微増となっている。

平成 24 年度（4 月～9 月）
小型合併浄化槽 工場生産出荷台数（ブロック別）

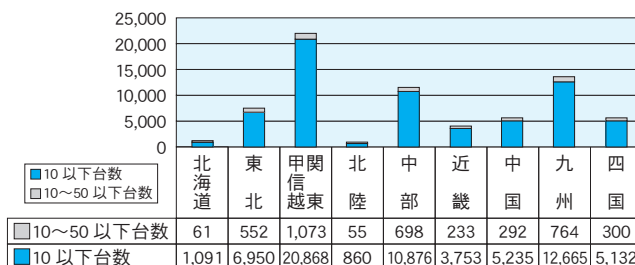
ブロック		5～10人槽		11～50人槽		合 計	
		台数	前年比	台数	前年比	台数	前年比
北海道	北海道	1,091	107.9%	61	91.0%	1,152	106.9%
東北	東北	6,950	122.6%	552	30.8%	7,502	100.6%
関東甲信越	関東甲信越	20,868	102.3%	1,073	96.8%	21,941	102.0%
北 陸	北 陸	860	97.9%	55	94.8%	915	97.8%
中 部	中 部	10,876	97.3%	698	92.8%	11,574	97.0%
近 畿	近 畿	3,753	98.4%	233	100.4%	3,986	98.5%
中国	中国	5,235	100.3%	292	108.6%	5,527	100.7%
九州	九州	12,665	99.7%	764	107.6%	13,429	100.1%
四 国	四 国	5,132	98.9%	300	108.6%	5,432	98.7%
	香川県	1,685	103.7%	104	109.5%	1,789	104.0%
	徳島県	1,329	102.9%	91	112.3%	1,420	103.4%
	愛媛県	1,339	93.8%	70	80.5%	1,409	93.1%
	高知県	779	92.2%	35	68.6%	814	90.8%
合 計		67,430	102.1%	4,028	76.0%	100	99.6%
		+ 2.1%		- 24.0%		- 0.4%	

+ 2.1%

- 24.0%

- 0.4%

平成 24 年度（4 月～9 月）
浄化槽出荷状況（ブロック別）



出前環境学習講座を

県下水環境課
と共催で

実施

環境技術センターは、11 月 1 日に児安小学校、11 月 7 日に芝田小学校（いずれも小松島市）において、出前環境学習講座を実施した。

生活排水対策を考えたとき、徳島県では、下水道と浄化槽は二本柱になる。このため、センターは、環境について広い視野で学んでもらうことを目的として、県下水道課へ、「環境学習を共同で実施してはどうか？」と提案、快諾を得たことから、今回、下水道課との共催が実現したものである。

①「汚水のおはなし」・②「水の汚れ調べ」のテーマで、座学講座と実験講座を実施、児安小学校 33 名、芝田小学校 19 名の児童が受講した。

①「汚水のおはなし（座学講座）」は、下水環境課の担当者の方が、水を汚す原因と、汚れた水をきれいにする污水处理について、またどうすれば水環境を守ることが出来るかについて講義した。

②「水の汚れ調べ（実験講座）」は、環境技術センターが担当し、児童にアメンボの制作キットを使って手作りのアメンボを制作してもらい、キレイな水では、表面張力で浮いているアメンボが、水が汚れると沈んでしまうことを体験してもらった。この実験は、水の汚れが自然界の生き物に及ぼす影響を学習してもらう

もので、工作の要素を取り入れることにより、子供たちの興味を引くよう工夫した講座である。

また講座と並行して、「アサリの浄化実験」を行い、アサリを入れた水槽に、米のとぎ汁を添加して、真っ白に濁った水が、講座修了時には透明に透き通る様子を見てもらい、自然界の自浄作用を実感してもらった。

いずれの講座も、児童たちは非常に真面目に取り組み、污水处理と水環境保全について理解を深めた様子で実り多い学習会となった。

環境技術センターでは、感受性豊かな子供たちへの環境学習を、水環境保全のための公益活動として、積極的に展開している。



11 / 7

芝田小学校



11 / 1

児安小学校



第 26 回 浄化槽技術研究集会開催 西岡課長補佐が研究発表

10 月 17 日(水)・18 日(木)の 2 日間、岩手県盛岡市の「アイーナ」および「マリオス」で第 26 回全国浄化槽技術研究集会が開催された。



これは、公益財団法人日本環境整備教育センターが毎年、浄化槽の日の関連事業として、実施しているもので、全国から、業界関係者、行政担当者、研究者など約 1,300 人が参加し、盛大に執り行われた。

1 日目は、式典に先立ち、アイーナでは、浄化槽協会・検査機関・研究機関などから 18 課題の研究が発表された。当センターからは西岡卓馬課長補佐が「徳島県における浄化槽管理の実情について」発表が行われた。

そのあと、式典が執り行われ、功労者に対する表彰や浄化槽研究奨励・楠本賞の贈呈が行われた。

式典終了後は、独立行政法人国立環境研究所の大垣眞一郎理事長による「地球規模環境変動と災害環境—その中の浄化槽への期待—」について特別講演が行われた。

2 日目は行政報告や浄化槽に関する情報が発信された。



阿南市こども フェスティバルに参加

「みんな集まれ！楽しく・ワクワク夢にチャレンジ！」をテーマに、阿南市こどもフェスティバルが 10 月 28 日(日)阿南工業高等専門学校において、開催された。

この催しは、色々な物作りや実験・観察等を通じて、子供たちの知育を図ることを目的に、阿南市と阿南市教育委員会が、阿南工業高等専門学校と共催で実施しているもので、今年で 10 回目となる。

当日はあいにくの大雨に見舞われたが、それでも、多数の来場者があり、色々なものづくりや体験イベントのコーナーで子供たちの歓声があがっていた。

センターが幹事として活動している、「みなみから届ける環づくり会議」もこの催しに参加、センターは水質 WG の一員として、こどもの実験・観察のコーナーで、「紙すき実験」、「汚れた水のろ過実験」、「阿南市に生息する魚の展示コーナー」を担当した。

紙すき実験では、環づくり幹事団体の王子製紙が材

料を提供、来場した子供たちがそれぞれにオリジナルのハガキを制作して嬉しそうに持ち帰った。

汚れた水のろ過実験では、同じく南部総合県民局が、ペットボトルを使った砂ろ過実験を行ない、紙すき後の濁った水が、ろ過されてキレイになる様子を観察してもらった。

魚の展示コーナーでは、同じく日亜化学が、工場内で飼育している色々な魚を提供展示、子供たちに観察してもらったが、魚のなかには、希少種の「オヤニラミ」なども含まれており、子供たちは普段見ることが出来ない魚に興味津津で目を輝かせていた。

センターからは啓発用絵本やまんがを子供たちに配布した。



10 / 28 阿南フェスティバル

サイエンスフェア 2012 みずすまし隊が出動

あすたむらんど徳島が主催する「サイエンスフェア 2012」に、当センターは平成 24 年 10 月 27 日(土)・28 日(日)の両日出展した。

「あすたむらんど徳島」が子どもたちへの科学普及推進事業の一環として依頼を受けたものであったが、昨年度に引き続き、みずすまし隊が子供たちとスーパーボールを製作した。今回は蛍光塗料を使用し、ブラックライトで光らせるように工夫を凝らした。

ハロウィンをイメージした箱の中に手づくりのスーパーボールを投入して、ブラックライトを照らすと、まったく違う色で光る様子に、子供たちは歓声をあげていた。

子どもたちには、遊びを通じて、科学に新鮮な興味や関心を育むよい機会になった。

また、保護者の方にも「センターを身近に感じた」との声を頂くなど、センターのイメージアップにも大きく貢献するイベントとなった。



10 / 27・28 あすたむらんど

四国地区 ソフトボール大会開催 優勝は香川県、準優勝は愛媛県

愛媛県が主催県となり、11月10日土曜日、西条市小松中央公園多目的広場にて第6回四国地区検査機関対抗ソフトボール大会が開催された。

本県からは職員28名と大坂会長、松原相談役が参加、雨だった昨年とは異なり、今回は「晴れ女？」の原岡専務が出席したので、絶好の天気恵まれた。

第1試合は愛媛県と対戦、初回2点を先制され、いつもの敗戦ムードを漂わせていた。しかし例年と異なり、その裏から打線が爆発、後半愛媛県に迫いつかれそうになったが、懸命の守りでなんとか2点差リードを死守、みごと勝利した。勝利の瞬間、ベンチを含め、皆がマウンドに駆け寄り喜び合った姿は、高校野球よりも感動的であった。主催県である愛媛県の皆さんから、寺井会長の指示どおり最高の「おもてなし」を頂いた第1試合となった。

続いての高知県戦は、途中接戦ではあったものの、後半力尽きてあっさり敗戦。藤原氏のしょべんボールにみごとやられてしまった。

そして、いよいよ最終第3試合の香川県戦。勝利すれば優勝も見えてくるので皆気合いを入れ直し、ベストメンバーで挑んだ。最初から打線が大爆発、おもしろいように点が入り、初回だけで11点を奪い、二回の裏までに16対3で大量リード。誰しものが優勝を確信し、川人次長も会長と共に所用のため、早々に引き上げた。ここからが悪夢の始まり。時間切れ間際の5回に一拳18点を奪われ、最終21対27となり、信じられない惨敗を期した。結果、優勝を夢見て挑んだ第3試合ではあったが、フタを開ければいつもの指定席である最下位に(>_<)・・・

残念ながら優勝を想定し、開会式前、川人次長が優勝カップを手に満面の笑みを浮かべ撮影した写真は、お蔵入りとなってしまった。

M監督 香川戦 同点になり 気が動転
O会長 そんな言い訳 言っていないわけ？



(蔵から出しました(^_^))

水質計量便り

インドで生物多様性条約第11回締約国会議(COP11)が開催されるなど、生物多様性という言葉がメディア等で取り上げられています。

では「生物多様性ホットスポット」という言葉を、耳にしたことはないでしょうか？

生物多様性ホットスポットとは、多様な生物が生息し生物多様性が豊かであるにも関わらず、絶滅危惧種が多数生息するなど、相反する状況をもちあわせている地域を言います。

国際環境NGOのコンサベーション・インターナショナルが公表している世界のホットスポットは、アフリカ、アジア太平洋、ヨーロッパ・中央アジア、アメリカなど世界中に存在し、35カ所が選定されています。

この地域は地表面積のわずか2.3%程度にも関わらず、絶滅危惧種の哺乳類や鳥類・両生類の75%を占めています。さらにはこの場所に全世界の50%の維管束植物類と約40%の陸上脊椎動物が生息しています。

さて、ホットスポットの選定基準はというと、固有の植物が1500種類以上有するが、元々の植生からは70%以上が失われている場所で、保全の重要性が高い地域という事ようです。

実は、驚くことに日本もホットスポットとして挙げられているのです(◎。◎)!

日本列島は、南の温暖湿潤気候から北へ亜寒帯気候が広がり、日本の山地形によっていろいろな気候帯を成し、多くの固有種が生息していますが、一方で著しい自然の消失が生じているという事なんですよね((+_+))

生物多様性の宝庫でもあるホットスポットを守っていく対策が必要ですね。
by koizumi

事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

〇11条検査

日程：平成24年12月17日～平成25年1月11日

地区：徳島市・鳴門市・藍住町・北島町・
松茂町・板野町・上板町・吉野川市・
阿波市

〇7条検査

日程：平成25年1月7日～1月18日

地区：藍住町・北島町・石井町・上板町・
神山町・佐那河内村



年末年始の水質検査受付のお知らせ

年末の受付は下記のとおりです。

- ① 生活環境項目(7項目等)
平成24年12月25日(火)まで
- ② 飲料水(簡易項目)
平成24年12月19日(水)まで
- ③ 上記以外有害項目等
平成24年12月19日(水)まで

年始は平成25年1月4日(金)より通常通り受付いたします。ご協力よろしくお願い致します。

